

【旭区】平成 30 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 30 年 6 月 4 日 (月) 14 時 30 分 ～ 16 時 00 分
場 所	旭公会堂 1 号・2 号会議室
出席者	<p>【座長】古川 直季 議員</p> <p>【議員：5 名】和田 卓生 議員、佐藤 茂 議員、河治 民夫 議員 小粥 康弘 議員、大岩 真善和 議員</p> <p>【旭区：36 名】下田 康晴 区長、小室 徹 副区長、 岡ノ谷 雅之 福祉保健センター長、 小磯 行生 福祉保健センター担当部長 川崎 敬生 旭土木事務所長、川村 滋 旭消防署長 ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】</p> <p>1 平成 30 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</p> <p>2 横浜市旭区大規模団地再生ビジョン (案) について</p>
発言の 要 旨	<p>【議題】</p> <p><u>1 平成 30 年度旭区個性ある区づくり推進費の執行計画について</u></p> <p><u>2 横浜市旭区大規模団地再生ビジョン (案) について</u></p> <p>佐藤議員：「学校連携・若者支援事業」の「困難を抱える若者のための地域サポート・フォローアップ事業」について、従来通りのプログラムなのか、さらに進展した計画を立てているのか、特にひきこもりなど困難を抱える若者の就労体験について伺いたい。</p> <p>高橋学校連携・こども担当課長：29 年度までに、中間的就労という本格的な就労に至る前の段階の取組に関する実践セミナーを行ってきた。29 年度中に中間的就労に対する協力企業を増やし、30 年度は西部ユースプラザや地域ケアプラザ等と連携してモデル的な取組を実施していく。</p> <p>佐藤議員：直接の関係はないかもしれないが、障害者の就業訓練について、旭区の地域作業所の数、通いたいという潜在的なニーズはどのくらいあるのか、後で良いので教えてほしい。</p> <p>「街の美化運動事業」の「不法投棄防止対策事業」について、本村インタ</p>

一チェンジの不法投棄が多い。以前もこの問題について質問し、その時は数日から一週間程度で対応してもらったが、その後も毎日のようにゴミが増えていく。大きな看板があるが、看板が見えにくいようである。道路公団の管轄だと思うが、資源循環局と連携して取り組んでほしい。不法投棄のひどい所は防犯カメラを設置して摘発してほしい。

白井資源化推進担当課長：以前、ゴミを撤去した際に、国道事務所の係長が対応してくれた。その際にも防犯カメラの設置について話題が出たが、国の基準もあり難しいとのことだった。今回の話を踏まえ、もう一度相談してみたい。

佐藤議員：その場所だけに限らず、例えば駅周辺などにも、防犯カメラをどんどん設置してほしい。よくタバコのポイ捨てを見かけるが、横浜市が摘発しているということが話題になれば、捨てる人もいなくなると思うので、ぜひ努力してほしい。

大規模団地再生については、民間の力・知恵を借りないとなかなかできない。10～20年後の街の姿は想像できるが、60～70年後は想像しにくい。素晴らしいアイデアを出さない限り、現在の構造物を維持・再生していくことは難しい。コンパクトシティということを考えると、駅周辺に人口が寄ってきてしまうというのは想像がつくことだが、ぜひ行政と民間の知恵を結集していただきたい。

議題とは関係ないが、3月に二俣川から近い保育園で要望を出した。年度が替わり、人が替わってしまったため、そのままになってしまっている。区の議員として細かいところまで、地域の方の意見を聞いて要望を出している。回答をお願いします。

古川議長：今の件については、対応をお願いします。

大岩議員：「水・緑による旭区の魅力アップ事業」の「ふるさとの川環境学習」について、区づくりの予算では小学生を対象となっているが、局予算で NPO 法人や地域で活動している方々に対して学習活動や、帷子川の環境を保全し、未来につなげていくための議論を支援している事業がある。その事業は3か年で終了のため、来年度で予算が無くなると聞いているが、3か年で NPO 法人が持続的に活動を続けていける状態になっているのか、それとも、今までやってきたことが終わりにになってしまう状態なのか、伺いたい。

押見区政推進課長：区づくりの予算では、水・緑の環境について、小学生のうちから考えてもらいたいということで独自に実施している。局事業については、道路局河川計画課が行っており、帷子川のアクションプランに基づき、ど

のような川にしていくか地域の方と考えていくという事業である。「帷子川はふるさとの川の会」や地域の方が多く参加している。次年度以降の予算については把握していないが、区としても局と連携して進めていきたい。

大岩議員：予算が無くなると、今までできていたことができなくなるかもしれない。地域に係わることなので、局との情報交換をしっかり行っていただきたい。

ひかりが丘のバス事業について、地域の方からの要望で、緑区を通過して中山駅まで行くバスが現在は2時間に1本通っているが、1時間に1本程度に増やしてほしいというものがある。交通の便が良くなれば、ひかりが丘団地の再生にもつながる。これについて分かっていることがあれば伺いたい。

押見区政推進課長：ひかりが丘から中山駅へのバスは、現在は中原街道を通るルートがメインとなっているが、渋滞がひどく通勤に使いづらい。お話しいただいたルートは緑区森の台を通り渋滞の影響を受けないが、便数が少なく、地域から増便の要望が出ている。そのため、道路局の地域交通サポート事業に手を挙げようと準備している。1月から地元でプレのアンケート調査を行い、「34%の方が中山駅をよく利用する」、「森の台を経由するバス便について最も要望が高い」というデータもある。

大岩議員：鶴ヶ峰駅の地下化について、15～20年かかると聞いているが、実現すれば駅周辺の土地が空くことになる。そこをどう利用していくのかという問題が出てくる。現在は道も狭く、一方通行の所もある。また、タカナシ乳業の所の踏切は狭くなっており、スクールゾーンなのに危険という声が学校へ寄せられている。地下化されれば踏切が無くなるため、だいぶ改善されると思うが、そのことが地域に伝わっていない。地下化は旭区としても、今まで実現できなかった道路整備のチャンスであるが、区局の連携、都市計画マスタープランに入れるのか等、今後の展望を伺いたい。

押見区政推進課長：連続立体交差事業に合わせて、鶴ヶ峰北口のまちづくりの課題を解決することが重要だと考えている。連続立体交差事業は道路局の所管だが、都市整備局とも連携して検討を進めている。まちづくり構想を今年度内に策定する予定で素案に意見をいただいている。住民の皆さんへの情報提供については、今年度に入ってから住民への説明会の回数を増やしたり、個別の相談会を行ったりなど、情報が広がるように取り組んでいる。

また、今年度改訂予定の都市計画マスタープランにも記載していく。併せて、老朽化・狭隘化している区庁舎・公会堂・その他の施設整備をまちづくりの中で行うことを都市計画マスタープランに記載しているため、関係局と調整していく。

大岩議員：地下化されるのは2.7km区間にわたると聞いている。二俣川や西谷方面についても、線路で分断されていてできなかったことを変えるチャンスである。その辺のところまで織り込んでプランを検討していただきたい。団地再生については、民間の力が必要。左近山小高小学校や若葉台西中学校の跡地利用について、高齢者施設にという話もあると聞いているが、今後の団地のことを考えると、若い層が団地に住みたくなる環境が必要なのではないか。子育て施設や教育施設、あるいは企業誘致やシェアオフィスなど雇用を生み出す場づくりが求められる。民間の提案をいただかないと新しいアイデアは出てこない。左近山小高小学校については、都市計画の関係で高度利用ができず、減築が必要と聞いている。減築となると、財政面等で制約が出てくるので、都市計画自体を変えてでも良いものを作るといような様々な角度から検討することが必要。今後、民間の力を借りるにあたっては、どんな手法を考えているか。

押見区政推進課長：学校跡地の活用については、地域の方とともに、大規模団地の再生における地域のニーズを考えていく。民間の方からアイデアをいただく取組を進め、起爆剤となるようなアイデアがあれば、公有地活用を含め大規模団地再生全体に反映していきたい。また、大規模団地再生という趣旨に賛同し一緒に力を入れていただける方を招き入れるような取組も併せて進めていく。駅から離れているという難しい条件ではあるが、民間の方に加わってもらって、SDGsという大きな視点からも考えていきたい。

大岩議員：座間のホシノタニ団地・日野の多摩平団地など、先例をしっかりふまえて、高齢者施設と子育て施設をミックスで造ることも他都市では行っているの、多方面から検討してほしい。

今後、横浜市内に61ある大規模団地に展開していくとなると、どのようなスケジュールで進めていくのか、以前の資料ではロードマップが示されていたが、今回の資料では消えてしまった。ビジョンを作った後に、実施計画がないと進んでいかないとと思うが、スケジュールやロードマップについて、どのようになっているのか伺いたい。

押見区政推進課長：以前のロードマップは29年度中に調査検討を行い、課題を整理

し、団地再生ビジョンを策定する、30 年度以降にビジョンに基づく具体的な取組を実施していく、旭区の再生ビジョンを抽出整理し、全市版のビジョンに活かしていくというものを掲載していた。今後、地域の方の意見を聞きながら、夏頃にビジョンを確定するとともに、並行して具体的な取組も進めていく。具体的な取組としては、若葉台・左近山では地域の方によるアクションプラン作りを進めている。全市版は建築局で今年度検討を開始したところであり、旭区のビジョンの要素も伝え、市内 61 の団地再生につながるようにしていきたい。

大岩議員：ロードマップについては、ぜひ、資料に載せてほしい。

河治議員：「認知症をみんなでささえるまちづくり事業」について、独居高齢者を民生委員が把握しているケースと、地域の中から見守りが必要という声上がるケースがあり、個人情報の問題で、なかなか地域全体で共有できないという課題がある。その中でどのように見守りを行っているか伺いたい。

松本福祉保健課長：旭区の事業としては「要援護高齢者等あんしん見守り事業」を行っており、民生委員・友愛活動員が要援護者を対象に、日常的に見守り活動を行っている。局事業では「ひとり暮らし高齢者『地域で見守り』推進事業」があり、75 歳以上のひとり暮らし高齢者の情報を民生委員に提供し、個別訪問を実施している。その他に、地域福祉保健計画の地区活動の中で見守りを行ってもらっている。個人情報をどこまで共有できるのかということが課題としてあることは認識している。

河治議員：情報を共有することが大事だと思うが、どのような方向性がベストだと考えているか。

杉本高齢・障害支援課長：必要に応じて地域ケア会議を開催し、個別の状況も踏まえて民生委員等と情報共有している。併せて、高齢・障害支援課のケースワーカー等の専門職が地域に入って、民生委員と情報共有を行い、個別に支援している。

河治議員：旭区の特性として、高齢化と交通不便地域が多いというものがある。移動の問題については、あちこちから困っているという声を聞く。四季めぐり号が 10 月で廃止されるが、1 日 100 人近い人が利用していた。この問題について、区づくりとしてどういう方向に持っていくのか。どういう解決を考えているのか、区長に直接、伺いたい。

下田区長：移動の問題については、地域をまわった時にも様々な方から声を聞き、承知している。四季めぐり号については、早期解決のために、現在、道路局

と協議している。この問題については、四季めぐり号だけでなく、全市的に今のやり方の限界が出てきている。関係区長や道路局とともに、現状の中で何が改善できるか考えている。様々な地域の課題もある中で、もう少しお時間をいただかないといけないが、四季めぐり号の問題と全市的な問題と、両方の課題に向き合っていきたいと考えている。

小粥議員：「区民に身近で信頼される区役所」の「二俣川行政情報発信コーナーの運営」について、旭区の行政情報発信コーナーが二俣川駅の中にあるのは、非常に大きい役割がある。里山ガーデンや50周年記念事業についても情報発信してもらいたい。今の図書取次のコーナーに置いても良いと思うが、この事業はどうなるのか、別の場所に移すことは必要なのか。

押見区政推進課長：都市計画マスタープランの中でも、鶴ヶ峰と二俣川を旭区の二大拠点と位置付けており、二俣川での情報発信は重要であると考えている。現在の行政サービスコーナーの場所、それから南口再開発ビル内の地域ケアプラザの隣など、地域の方たちと意見交換しながら情報発信をどのように行っていくか考えていきたい。

小粥議員：新しくできた地域ケアプラザの場所は、行き方が難しい。ショッピングに来た人たちが通りかぎりに目にできる場所が良いと思うので、工夫してほしい。

「新あさひみらい塾事業」について、どんなテーマで実施しているのか。参加者の学んだことや実績、これからの展望について伺いたい。

押見区政推進課長：26～28年度までは、「あさひみらい塾」として区民に広く声をかけ、地域活動に励みたいという方へ、すでに地域で始まっている事業に参加してもらい、学習の機会を提供するという形で実施した。29年度は自治会町内会の活動に落としこめるようにやり方を変え、「中堀川プロムナードの美化」というテーマで実施した。その結果、連合未加入の自治会や水辺愛護会等、多くの方にも議論に参加していただき、一定の成果があった。30年度は当初のやり方も合わせ、学習が終わった後に地域での実践につなげていけるように工夫していきたい。

小粥議員：「大規模団地における大学生による地域支援活動モデル事業」について、現在の参加者は横浜国大の特定の学科の学生が多く、もう少し他の学科の学生にも分散しても良いのではないかと。様々な学生に入ってもらった方が地域のためにもなる。

押見区政推進課長：広く募集は行っているが、横浜国大の建築関係の学科で、まちづ

くりに関する授業の一環として取り組んでいただいていることもあり、どうしても建築関係の学科の学生が多くなってしまった。今年度の募集は、NPO 法人の活動支援も一緒に考えていくという内容で、他の学科の学生にも広く興味関心を持ってもらえるような内容になっており、できるだけ様々な方に携わってほしいと考えている。

小粥議員：建築だとハード面の整備に偏ってしまうので、ソフト面にも力を入れるようにお願いしたい。

大規模団地再生ビジョンについては、高齢化・人口減少という問題を抱える中、若い層を呼び込む魅力がないといけない。どのようにこれから実施していくか、展望を伺いたい。

押見区政推進課長：若い世代の流入ということを目標に掲げていく。ハード面では、建て替えや住戸改善ということになり、ソフト面としては、その前段階の地域の方とのプラン作りを進めている。若葉台ではプラン作りの中で「横浜若葉台子ども憲章」を制定するという案が出てきた。若葉台は子育てをする皆さんにやさしい街である、ということを経験として住民の皆さんが打ち出すというものであり、これを伝えやすい形にしてプロモーションしていくことを考えている。そして、それをハード面の展開につなげていきたい。

小粥議員：ハード面の整備に関しては、県公社や UR の意向もあり、旭区がやりたいというだけでは実現しない。また、住戸改善だけで若い人が流入するかという問題もあるため、若い層への魅力づくりということに力を入れてもらいたい。

区政推進課の事業のボリュームが多いように感じる。空き家などでも対応をお願いしているが、人が少ないのか後手後手に回ってしまっている。人員の配分や融通などを考えていかないと、最終的に区民サービス向上にはつながらない。現状では負荷が偏っていると感じる。

下田区長：違和感があるものは改善していきたいと考えている。難しい業務が増えている中で偏りの問題もある。また、庁舎の老朽化という問題もある。人と、庁舎の中でのサービス環境というものは重要だと思っている。すぐに変えられるものではないが、そのことは運営方針にも書いていることであり、大切にしていきたい。

和田議員：「旭ふれあい区民まつり」については、鶴ヶ峰公園や庁舎周辺など複数個所で行われているが、以前はこども自然公園で行われていた。こども自然

	<p>公園は駅から遠いこともあり、いつも同じ場所でなく様々なところで開催してはどうかということで今の形になったという経緯がある。すでに今の会場も定番となった。今の区民まつりを見ていると、物販中心で、来場者に子どもの割合が少ないと感じる。どんな層をターゲットにし、区民に区の魅力を知っていただくという観点から、50周年を機に考え直しても良いのではないか。</p> <p>神田地域振興課長：お話の通り、交通の便や商店が多いことなどを考えて今の会場になった経緯がある。それぞれのブースも人気があり、駐車場なども利用して会場を広げている。物販については、ついでに商店で買い物をしてもらえるというメリットもある。今年度は、公会堂で行っている健康フェアやダンス・ダンス・ダンスと連携するなどして若い層にもPRできるよう50周年に向けて工夫していきたい。</p> <p>佐藤議員：振り込め詐欺について、旭区は被害が多いが、金融機関での対策も警察の管轄なのか。</p> <p>神田地域振興課長：金融機関における振り込みについては、警察の方で対応してもらっている。しかし、警察や市民局とも連携して振り込め詐欺防止キャンペーンを実施している。4月の広報よこはまにも記事を掲載した。今後も広く啓発できるように広報していきたい。</p> <p>佐藤議員：被害者が振り込み手続きを行ってしまう金融機関は、どこが多いのか。銀行なのか、郵便局なのか、コンビニなのか、後日で良いので教えてほしい。</p>
備 考	会議の議事録作成については座長に一任で異議なし。